開　会　挨　拶

関西自然保護機構会長　千　地　万　造

本日は，せっかくの日曜日，それも衆議院選挙選挙の投票日という時間的にも慌ただしい日にもかかわらず，私どもが計画いたしましたシンポジウムにこのように多くの方に参加していただき，こころからお礼を申上げたいと思います。

関西自然保護機構では，毎年一つのテーマをあげてシンポジウムを行なって参りました。私どもが計画しているシンポジウムは，毎年の自然保護に関わる話題や，時代的な課題となる様なテーマを選び，そのテーマの専門家の意見を交換することで，その時々に何が必要であるのかを社会に提案できるような内容のものになっていると思っております。

そして毎回のシンポジウムの結果は，関西自然保護機構の会誌を使って，報告書として発表しておりますが，これも回を重ねて，引用されることも多くなり，自然保護に関する情報として定着しつつあるように感じております。

今年はレッドデータブックをテーマに選びました。国レベルでの植物のレッドデータブックが作られたのが1989年でした。その後，魚類や両生類は虫類などが順に作られ，また都道府県でも作られるようになって，日本の生物についての情報がきめ細かに分かるようになってきました。

しかし一方で，たとえば天然記念物のような特定の種や大木などを保護するということについては，歴史的な経過と役割はあるものの，自然保護の理論としては，過去のものになっていると思われます。そういう種を守るためにも地域の生態系や生息環境全体を守るというのが，最近の考え方です。それにもかかわらず，数が減少し，絶滅の可能性がある種を取り上げて保護する，という方法論には，整理しておくべき課題が幾つかあるように考えられます。

レッドデータブックを作るにあたっての背景となる理論や，いわゆるカテゴリー区分の考え方，そしてこのリストが実際にはどの様に使われることで自然保護に効果があるのかなど，幾つかの問題が考えられます。

今回のシンポジウムでは，作ることが目的のようにも成っているこのレッドデータブックについて，その背景となる考え方を整理し，実際にレッドデータブックを，自然を残していくために効果のあるものとするためにはどうすればいいのかを考えてみたいと思います。

難しいテーマについての講師を引き受けていただいた方々には，厚くお礼を申上げます。また会場に参加していただいた方々とともに，十分な議論をしていきたいと思います。

簡単ではございますが開会の御挨拶とさせていただきます。